

#### (4) お城山の<sup>しらかわそう</sup>白河層

お城山の南口から約200m登った所で左に折れ、そこから50mほど進むと右側に、表面の土が崩れ落ちている<sup>がけ</sup>崖がある。そのあたりをよく見ると、砂やレキの層であることがわかる。



白河層が見える崖

三春町一帯は、そのほとんどの<sup>ちいき</sup>地域が今から約2億年から6千万年も前につくられたカコウ岩類でできているのに、かなり高いところに砂やレキの層が見られるのはめずらしい。

カコウ岩類は、地下深い所にできたマグマがゆっくり冷えて固まったものであり、砂レキ層は、流れによって砂やレキが積み重なってできたものである。

この砂レキ層の中のレキは、まるいものや平べったいものが多く、河原にあるレキによく似ている。

また、この砂レキ層の上には、さらにギョウカイ岩の層が重なってお城山の<sup>ちやうじやう</sup>頂上にまで続いている。



砂レキ層

お城山のギョウカイ岩は、白河地方に産出する白河石とに